

川口市立医療センター広報紙

はな みず き
花水木

特集

2020.3.1 Vol.42

赤ちゃんの未来のために



撮影場所:グリーンセンター



川口市立医療センター「みみたーず」
イメージキャラクター
"よく聴き・よく診て・よく説明する"

基本理念

市民に信頼され、
安全で質の高い医療を提供します

高齢者の転倒を予防しましょう

転倒が原因で要介護に!?

加齢により筋力や平衡感覚（バランス感覚）が低下すると、歩くときにつま先を上げる動作が難しくなったり、すり足になったりして、じゅうたんのふちなどわずかな段差でもつまづくようになります。視力が衰えると、段差や物に気づかず転倒のリスクが高まります。また、病気や服薬の副作用によるふらつきや眠気なども転倒の原因となります。

さらに、高齢者は骨が弱くなっていることが多く、転倒したときに腕や手首、背骨、股関節付近の大腿骨頸部の骨折などが起きると、いずれも入院治療や自宅療養が必要になります。ベッド上での安静など体を動かさない状態が長く続くと、認知症状が出現または悪化したり、筋力がさらに弱まり、寝たきり状態になる可能性もあるのです。

転倒予防のためにできること

- 体操やストレッチなど日々の適度な運動で筋力やバランス感覚を保つ（無理はしないのでできる範囲で!）
- スリッパやサンダルではなく、かかとがしっかり固定された履きやすい靴を履く
- 雨の日に滑りやすい道路や駅の構内、スーパーの通路などは歩かない
- 人とぶつかる、自分のペースで歩けないなど混雑した場所には行かない
- 部屋の床に不要なものを置かない
- じゅうたんや部屋の境目などの段差を極力なくす
- 階段や浴室、トイレなどに手すりをつける
- 夜間の照明を明るくする

健康的な生活を送るために、できることから取り組んでみましょう。



赤ちゃんの未来のために

医療センターでは、妊娠したかたが健康的な妊娠生活を送り、安全に赤ちゃんを産み育てることができるよう、総合病院ならではの強みを生かし、産科や新生児集中治療科 (NICU) など複数の科が緊密に連携して、お母さんと子どもの健康第一に安全・安心の分娩及び診療、ケアに努めています。

妊娠中から産後まで手厚くケア

産科では、正常妊娠はもとより近年増加している切迫早産、胎児発育不全、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠といったハイリスク妊娠も含めたすべての妊娠に対し、外来診察時から入院、分娩時まで、一貫して医師、看護師、助産師が対応します。昨年は、600件以上の分娩を扱いました。



妊娠はおめでたいことではありますが、出産や育児に対し不安や心配になってしまうお母さんもいることでしょう。当センターには41人の助産師がおり、そうしたお母さんに寄り添い、手厚くサポートをしています。妊娠中の健診や分娩の介

助はもちろんのこと、育児の悩みを相談できる赤ちゃんサロン、ヨガインストラクターの資格を持つ助産師によるマタニティヨガ、母乳相談を行う母乳外来などを実施しています。

産科病棟もリニューアルし、白と茶色を基調とした落ち着いた雰囲気のある部屋になり、より快適な入院生活を送っていただけるようになりました。

24時間母体搬送受入れ

周産期は、母子ともに将来に影響を及ぼすような異常が発生しやすい時期です。当センターは、県内に9つある地域周産期母子医療センターの一つに指定され、川口市、戸田市、蕨市、草加市、八潮市、三郷市、吉川市の広く県南東部地域を担当しています。

母と子の生命に関わる事態に陥る危険性がある母体の搬送を24時間体制で受け入れ、NICUと連携し、母体・胎児・新生児に最新かつ高度な治療を提供しています。

小さく生まれた赤ちゃんも元気に

NICUでは、超早産児、低出生体重児、呼吸障害などの新生児の入院、治療を行っています。小児外科、脳神経外科、形成外科などと連携して手術も行います。昨年の入院は220人、そのうち出生体重が1,500g未満の極低出生体重児は56人（うち出生体重が1,000g未満の超低出生体重児は16人）でした。

小さく生まれた赤ちゃんでも、適切なケアができれば大きく元気に育ってくれます。NICUでは、退院後も、学齢期までの支援や在宅医療児の支援など、ご家族を含めた心身のフォローアップを行っています。

開院以来25年、NICUを巣立った子も6,500人を超えました。大学入学、就職、結婚などのうれしい報告が今も寄せられています。医療の進歩によって救える命は確実に増えているのです。

これからも、赤ちゃんのご家族の未来のために、診療科の枠を超え、スタッフ一丸となって、信頼関係に基づく最良の医療の提供に取り組んでいきます。



令和2年
4月1日

川口市こども夜間 救急診療所の開設

現在、川口市では、夜間における緊急の小児患者を応急的に診療するため、川口市医師会の先生がたの協力により、市内の医療機関が毎日当番制で小児夜間救急診療を実施しています。

今年4月からは、平日、土・日曜日、祝日にかかわらず、年間を通じて夜間の子どもの診療を1カ所で行う拠点として「川口市こども夜間救急診療所」を、鳩ヶ谷庁舎別棟に開設することとなりました。

施設名	川口市こども夜間救急診療所
所在地	川口市三ツ和1丁目14番地の3
電話番号	048-299-8770(4月1日から)
診療内容	子ども(0歳~中学生)の夜間の急な発熱、腹痛、嘔吐などの緊急を要する内科症状
診療時間	平日19時30分~23時 土・日曜、祝日、年末年始17時30分~22時 (受付は診療時間終了の30分前まで) ※必ず電話をしてから受診してください。

みなさんへお願い

小児夜間救急診療は、あくまで子どもの緊急の症状を応急的に診療するためのものであり、昼間に時間が取れない、身近に相談相手がないかたなどの時間外窓口ではありません。本当に救急医療を必要とする患者が適切な医療を受けられる救急診療体制を維持するため、日頃から相談できるかかりつけ医をもち、適正な受診を心がけていただくようお願いいたします。

子どもの様子が変わったと感じたら

●小児救急電話相談

#8000または048-833-7911

子どもの急病時の家庭での対処方法や受診の必要性などの相談に応じます。

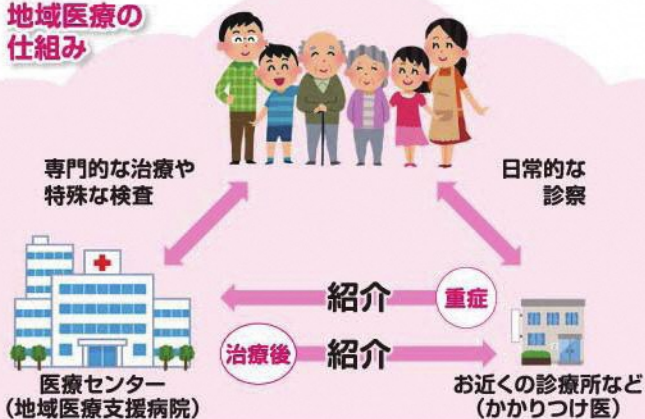
●こどもの救急ホームページ

<http://kodomo-qq.jp/>

(公益社団法人 日本小児科学会)



地域医療の 仕組み



バス案内 (国際興業バス)

川口駅東口(8番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

西川口駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

蕨駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

赤羽駅東口(6番)発

新井宿駅経由 川口市立医療センター行

循環バス (川口市コミュニティバス)

みんななかまバス

埼玉高速鉄道をご利用の方は

埼玉高速鉄道 新井宿駅から徒歩10分

駐車場のご案内

駐車料金 4時間まで200円(その後1時間ごとに100円)

総合受付の「5」会計受付にてパーキングカードを販売しております。

(1,000円券・3,000円券)

駐車台数 約600台収容

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦

編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180 ☎048-287-2525(代表)



ホームページ